



2024年11月11日撮影
細谷優子 永田ひとみ
坂和章平弁護士 宮本三恵子



最新刊！『シネマ 56』
2024年12月出版
定価1,100円（税込み）



『坂和的中国電影大観5』
（＝『シネマ54』）
も好評発売中！
定価1,980円（税込み）

◆ 業務時間・アクセス ◆

平日 午前9時～午後6時 土日祝は休業

【大阪メトロ堺筋線・谷町線「南森町駅」から】

2番出口を出て左へ（西へ）。阪神高速の高架に向かって進む。高架をくぐったところになにわ北府税事務所があるので、その手前で左に曲がり、高架沿いに直進（南下）。1つ目の信号（西尾倉庫・みなみの森保育園の手前）で右に曲がると、右手に西天満郵便局がある。その3軒西隣が西天満コートビルです。



【大阪メトロ堺筋線・京阪「北浜駅」から】

26番出口を出てすぐの難波橋を渡る。2つ目の信号（Y字路の交差点「西天満1東」）を横断せずに右へ進むと阪神高速の高架があるので、その手前の信号「菅原町西」で堺筋を北へ横断。高架沿いに直進（北上）し、2つ目の信号（左手に西尾倉庫・みなみの森保育園の看板）で左に曲がると、右手に西天満郵便局がある。その3軒西隣が西天満コートビルです。

新年あけましておめでとうございます。

第1 トランプ圧勝！第2次政権に向けて着々

1) 4年に1度のオリンピックも面白いが、同じく4年に1度の米国大統領選挙はそれ以上に面白い。第2次世界大戦後の“東西冷戦”の中で、米国が果たしてきた“世界の憲兵”としての役割は中国の急速な抬頭によって弱まっているが、軍事力を背景としたその影響力はなお大きい。私は2016年のヒラリー・クリントンVSドナルド・トランプの対決を胃がん手術入院中のベッドの上で連日TVで観ていたが、大方の予想を反する結果にビックリ。大手マスコミ報道のいい加減さにうんざりしつつ、古森義久、木村太郎両氏の取材力と観察眼の確かさに感服した。

2) 2020年11月のトランプVSバイデン対決は想定外の結果に終わったが、T氏の不屈の精神は素晴らしい。高齢のため出馬を断念したB氏に代わるカマラ・ハリスVS Tの2024年11月対決を、私は肺がん手術直後の静養中にTVにかじりついて見分した。日本のマスコミの予想は0.1ポイント差の大接戦。開票確定まで数日を要すると言われていたペンシルベニア、ミシガン、ウィスコンシン、ノースカロライナ、ジョージア、アリゾナ、ネバダの“激戦7州”でも早々にTの優勢が報じられ、結局すべてをTが制した。選挙人の獲得数が312人（31州）×226人（19州+首都ワシントン）の圧勝なら、総得票数でも7,483万票×7,123万票と20年ぶりに共和党が勝利。同時に行われた上下院選挙でも上院は共和党が過半数の53議席を（民主党47議席）、下院（定数435）でも過半数獲得を確実とし、“トリプルレッド”を実現した。T圧勝、H惨敗の要因は多くの識者やマスコミが自責の念を込めて分析中だが、猛省が不可欠だ。

3) Tが選挙の2大争点とした経済（インフレ対策）と移民（国際問題）で、Tは本来民主党の票田だった黒人やヒスパニック票を奪取した上、中東問題ではアラブ票まで集めたからすごい。民主主義の価値や人工妊娠中絶問題等を声高に叫んだH氏はもともと民主党内の予備選挙を経ず、Bの撤退によって急浮上しただけという弱点を徐々に暴露してしまった。良くも悪くも、自分の言葉で語るTに対し、

優等生セレブながら応用力不足が目立つHの演説はどこか上滑りだった。

4) そんなことにトンと興味を示さないTは、1/20の就任に向けて第2次T政権の人事の骨格を着々と固めている。その筆頭はスーザン・ワイルズ大統領首席補佐官の起用だが、その陣容、その全体像に注目。他方、新設する「政府効率化省」トップへの実業家イーロン・マスク氏の起用は何とも異色だ。今回の人事の基準は何よりも“忠誠心”。恐る恐るの旅立ちだった（？）第1次政権では、Tの側近だけでなく軍や外交の“実力者”を起用したものの、徐々に意見の違いが表面化し、ヘイリー元国連大使、ポンペオ前國務長官らは、政権を離脱してしまったから、今回は“同じ轍は踏まないぞ”というわけだが、政権の骨格をTに近い人物や信奉者で固めることの功罪は？

5) “もしトラ”から“またトラ”になった2025年の世界が激動することは明白。Tの「タリフ（関税）」は、それは最も美しい言葉だ、「ラブ（愛）よりも美しい言葉だと思う」は、タリフマン（関税男）を自称するTの本音だから、日本製品に10～20%、中国製品に60%、台湾に侵攻した場合は150～200%、メキシコ製品に200%の関税を！が決して脅しでないことも明白だ。80年代に日本マネーが世界を席捲した時、NYの不動産王だったTは三菱地所によるロックフェラー・センターの買収（89年）に歯ざりしりした悔しさを今も覚えているらしい。トリプルレッドを果たした今、就任初日に各種各様の「大統領令」に署名さえすればTの政策は何でもござれだ。ウクライナ戦争について「俺なら一日で終結させてみせる」と豪語していたTは、本気でT流の和平案を提示し、トップ会談（ディー）での実現を目指すだろう。賛否両論があるのは当然だが、何もできず時間ばかり浪費し、被害の拡大を続けるのはナンセンスだ。太平洋戦争（大東亜戦争）だって、原子爆弾の投下前に日本が領土の割譲を決断し、敗北宣言をしていれば被害は小さかったはずだ。

第2 ウクライナ戦争は？今なぜ露朝同盟が？

1) ウクライナ戦争は米欧の自制的支援の中で一進一退を続けているが、ロシアと北朝鮮間

の有事の相互軍事支援を定めた包括的パートナーシップ条約の批准が“またトラ”に合わせるかのように完了した。ウクライナ東部には既に約1万人の北朝鮮兵が配備されたが、それはすべて金で雇われた弾除け的存在？それとも『シウリ』（99年）で観たような最精鋭の特殊工作部隊？もし後者なら？

2) “またトラ”に合わせるかのように北朝鮮の弾道ミサイルの発射実験が続いているが、そこにロシアのドローン技術や核の技術まで投入されたら、朝鮮有事の危機は一気に拡大し深刻化すること確実。「近時の韓国は統一を目指す対象ではなく敵対国だ」との金正恩の言葉と、国境付近での防衛陣地の構築は不気味だ。保守派の尹錫悦大統領の任期も半分を超えたが、その支持率は低下の一途。米韓同盟がどこまで機能するかも不透明だ。

3) ウクライナ戦争をトランプとプーチンのトップ会談で本当に1日で終結させたら、次の標的が韓国に向かう可能性は強い。そうなると、さあ韓国は？日本は？

第3 ハマス・イスラエル紛争は？中東和平は？

1) ハマスVSイスラエル紛争は地下通路内の戦いで収まるどころか、ガザ地区やレバノンのイスラエル派武装組織ヒズボラ攻撃へと戦線が拡大した上、イランとの軍事衝突さえ現実化した。米国のイスラエル支援は当然だが、バイデンの忠告を無視したネタニヤフ首相の強硬姿勢は継続中だから、パレスチナ側の犠牲は拡大の一途だ。

2) 「イギリスの二枚舌外交」を明確に暴いた名作『アラビアのロレンス』（62年）を持ち出すまでもなく、中東の政治・軍事問題は複雑かつ難解。それに宗教問題が絡めば、モーゼ率いるユダヤの民を描いた『十戒』（56年）の時代からの宗教紛争、民族紛争だから、その解決は至難の業だ。

3) 他方、バイデン以上のイスラエル寄りのトランプがなぜアラブ票を集めたの？それはTならイスラエルへの“自制要求”が効くだろうとの期待だ。さあ、トップ会談での交渉が得意なTはどんな技を？もし彼が本当に中東和平を実現させれば、ノーベル平和賞確実だが・・・

第4 石破茂第2次内閣の前途は？寿命は？

1) 岸田内閣は「政治とカネ」問題への適切な

対応ができず、「派閥解消」という大英断を下しながらも、自民党総裁選挙によって「表紙を変えて総選挙」という見え透いた決断をした。石破茂が決戦投票で高市早苗に勝利したのが自民党国会議員の「微妙な選択」なら、第1次石破内閣の発足（10/1）も、10/27 総選挙の実施もハチャメチャ。石破氏の公約違反や過去の発言との矛盾が相次いだ上、投票日直前の非公認候補への2,000万円の支給というチョンボもあって、「自公で過半数」という最低目標すら達成できず惨敗した。こりゃ、総選挙を主導した総裁も幹事長も責任を取って辞任！それが世の常識だが、石破おじさんは過去の自分の発言をすべて封印して辞任を拒否！今にも沈没しようとする船の船長に名乗りを上げる人がいないことを幸いに総理総裁の座に居座った彼は、11/11、第2次石破内閣を発足させたが、その前途は？寿命は？

2) 故安倍晋三総理は2016年11月の大統領選挙に勝利したトランプとすじに連絡を取り、先輩政治家としての貴様を示しながら「と仲良しになり、ゴルフ外交等をこなした。しかし、私でさえ鬱陶しい“石破節”を「が黙って聞かざるが。首脳会談が実現しても、バカにされるだけだろう。先進7カ国(G7)の中で「と」対等に渡り合えるのは、フランスのマクロン首相とイタリアのメローニ首相だけ。ハリスを支援していた英、独、カナダのトップは相手にされないだろうし、政権基盤が脆弱で短命必至の石破総理など論外だ。

3) 国内政治では、「手取りを増やす」のアピールで7議席から28議席に躍進した国民民主の玉木雄一郎代表が一躍“時の人”になったが、絶妙のタイミングでの不倫報道によって完全にアウト！年収103万円の壁をアッパセるべきは当然だが、社会保険に関わる106万円の壁、130万円の壁との調整や財源の確保は極めて難しい。少数与党に落ちぶれた自公は国民や維新に秋波を送りながら政策毎の部分連合を目指しているが、出来の悪い国会議員たちにそんな器用な芸当ができるはずがない。石破総理は「年内の政治資金規正法の再改正」を標榜するが、それもきつと不可能だ。予算委員会の委員長を立憲に譲った中で予算の成立すら危ぶまれる国会運営に石破内閣が持つはずがない。1994年の羽田孜内閣総辞職と同じく短命に終わることを私は予言しておきたい。それに代わって高市早苗内閣が誕生するとも思えないが、そうかといって立憲民主を軸とした政権交代が実現するとも思えない。すると、2025年の日本国の行方は真つ暗闇だが、さてその処方箋は？救世主は？

第5 維新の再構築は？衆院選での夢の実現は？
1) 大阪では、大阪都構想実現のために封印してきた公明との対決に舵を切った維新が、10/27 総選挙では19の小選挙区で全勝。自公は大敗した。そんな維新だが、全国的には比例代表の票数を805万→510万に、議席も44→38に減少した。その原因は？戦犯は？

2) その一つが馬場伸幸代表ら東京組国会議員の古い体質だとする大阪スピリットの議員たちが代表選挙の必要性を訴えた結果、吉村洋文共同代表・大阪府知事が出馬を表明。対抗馬が出たのは維新らしく結構だが、勝敗の見込みは明かだ。しかし吉村代表が実現しても、私の予想では国会対応と府知事の両立は不可能。代表としての期待が大きければ大きいほど、国会や霞が関で維新らしい改革が進まなければすぐに失望してしまう。4月開催の大阪万博で何らかの失策があれば、府知事と市長を独占し、府議会と市議会で単独過半数を誇っている維新も失速してしまうはずだ。吉村もそんなことは百も承知だが、それでも出馬した（しなければならなかった）のは、彼に代わる人材がいなかったためだ。

3) 1994年の羽田孜内閣は64日間の短命内閣だったが、第2次石破内閣も似たようなもの。政治資金規正法の再改正、年収103万円の壁で、どこまで野党との政策協議や部分連合が

できるかは腕の見せどころだが、少数与党の力で予算を成立させ、通常国会で各種法案を成立させていくのは到底無理。すると焦点は、いつ内閣不信任案が成立し、いつ内閣総辞職するかだが、私の予想ではそれは春だ。夏の参院選挙に向けて自民党はいよいよ小泉進次郎を新総裁に担いで戦うしかないだろうが、その結果は、自民も公明もダメ、立民も維新も国民もダメとしか思えない。

4) そんな絶望的な状況の中、維新の唯一の光明は橋下徹、松井一郎両創業者の復帰だ。弁護士兼コメンテーターから政治家に、そして大阪都構想の挫折を理由にスパッと政治家を辞めた橋下は、以降気楽なコメンテーター業で稼ぎ、松井もそれを見習っているが、それではあまりに第二世代の吉村がかわいそうだ。“死に体”のままで2025年春の衆院選挙に臨む自民と同じく、維新もボロボロに消耗した吉村代表の下で臨めば、大阪でも敗北する可能性がある。それを阻止する唯一の方法は、橋下と松井が出馬し、自民を圧倒して、代表に復帰することだ。石破の選挙区での対決がベストだが、いくら橋下人気が強くても鳥取の選挙区での勝利は無理。東京の小泉進次郎や萩生田の選挙区への殴り込みが次善の策だ。維新旋風で圧勝し、小泉人気を封じしまえば、日本国の統治システムが維新の思い描く方向に進むこと間違いなしだ。

5) 私は時々そんな夢を見ているが、それが2025年元旦の夢ではなく、夏の参院選前の春の総選挙で現実起きることを期待したい。橋下が維新の一兵卒として小泉の選挙区で立候補すれば若者たちも投票するから、投票率は夢の70%、80%！そんな奇跡が起きるかも！そんな事態になれば、昭和維新も平成維新も実現しなかったが、ひょっとして令和維新が現実のものになるかも？

第6 プロ野球、大リーグ

1) プロ野球は、11/3、横浜ベイスターズの“下剋上”によって終了した。セリーグのクライマックスシリーズ(CS)での阪神(2位)戦、巨人(優勝)戦での勝利がお見事なら、圧倒的戦力を誇るソフトバンクを相手にした日本シリーズにおける、2連敗後の4連勝はまさに奇跡。あの投手陣ではいくらなんでも持たないだろうと思われたが、桑原、牧、オースティン、宮崎らの主力に、大リーグ帰りの筒香やベテラン捕手、戸柱らを加えた打撃陣の集中力となぎ力はベナント争い時の姿と違い、輝いていた。阪神「I」の佐藤明と横浜「B」の牧秀悟はプロ入り同期で、1年目は佐藤の大型ぶりが注目されたが、今や総合力では牧の方が上。覇気のない空振りとも、とんでもない失策が目立った佐藤は岡田阪神が連覇を逃した戦犯たることを自覚し、来年は急成長した姿を見せてほしい。

岡田監督が2年で引退したのは立派。後任の藤川球児監督はTV解説者としては超一流だが、コーチ等の指導者経験がないのが少し不安。しかし、個々の選手への技術指導はコーチに任せ、阪神「I」の切りれた彼には、日本ハムを率い、大谷翔平を育てた栗山英樹監督のように、大所高所から長期的なビジョンを明確に掲げながら、現有戦力のかんさげを目指して欲しい。幸い、近時のドラフト指名選手には昔の“江川事件”のような反逆心はなく、素直な若者ばかりだし、優れた能力の持ち主も多いから、その鍛え方、育て方の上手、下手によって、戦力の強弱が決まることになる。勝負は秋季キャンプから。CSでの阪神「I」の敗退で私は一気にプロ野球への興味を失ったが、新年をしっかりとりたい。

2) 大リーグ(MLB)の、10年総額約1,000億円という大谷翔平とLAドジャースとの超大型契約にビックリなら、その大半が後払いという合理性にも、さらに米国にそんな税制があることにもビックリ！右肘のトミー・ジョン手術によるリハビリ中にもかかわらず、指名打者としての道を発見した上、盗塁にも挑戦

し、54HR、59盗塁というとんでもない数字を生み出したから、ナリーグのMVP選出は当然だ。大谷の金字塔は、野茂英雄、イチロー、松井秀喜ら日本人大リーガーの活躍の上に成立したもののだが、11/2に実施されたLAでの凱旋パレードに見る彼の体格の巨大さ、両腕の太さはまさに芸術品。天賦の才を日々の努力・鍛錬によってここまで開花させたことに大拍手！対ヤンキース第2戦の盗塁の際に起きた左肩の負傷も優勝パレード直後の11/5に「脱臼による関節唇断裂を修復する関節鏡視下手術」を受けて成功させた。あの強靱な肉体なら回復も早いだろう。

3 月末の開幕戦を日本で開催するドジャースは、大谷翔平と山本由伸の先発で、興行的にも大成功間違いなし！大リーグの放映権ビジネスは複雑極まりないが、第6戦まで死闘が続いたドジャースvsヤンキースのワールドシリーズ(WS)の入場券は、外野席でも10万円以上、内野席なら数百万円というからすごい。優秀な選手が次々と大リーグを目指すのは当然だが、それは他方で日本の野球人気を縮めることになる。それを防止するためには、日本のプロ野球の魅力を高め、興行力を上げることが不可欠だが、さて日本のプロ野球の重鎮たちの何人がそんな長期的な展望戦略を持っているのだろうか。混迷を極める日本の政治状況とも対比しながら、日本のプロ野球の在り方の長期的なビジョンを議論していく必要がある。

第7 将棋、囲碁

1) 将棋界は、竜王、名人、叡王、王位、王座、棋王、王将、棋聖の八冠に登り詰めた若き天才、藤井聡太が、叡王戦で伊藤匠七段に敗れたため、七冠に後退。これによって、八冠保持記録は254日、タイトル戦無敗は22期で止まったが、なおしばらくは藤井一強時代が続くことは誰の目にも明らかだ。

2) 囲碁界は、井山裕太七冠の一強時代が終了した後、一力遼と芝野虎丸が抬頭し、三者鼎立時代が続いた。しかし、第49期名人戦で芝野に勝利した一力が、名人、棋聖、天元、本因坊の四冠となり、王座、棋聖、十段の井山、2年ぶりに無冠となった芝野を大きくリードした。一力の強さは、これまでからきしダメだった国際戦でも発揮され、9月に中国で開催された“囲碁オリンピック”と言われる世界メジャー「応氏杯」の決勝戦で、日本囲碁界悲願の世界タイトルを奪還したからすごい。

蜀・魏・呉の三国が鼎立した「三国志」の時代は長く続かなかったが、一力、井山、芝野の「三国志」時代もこれで終焉したのだろうか？それとも、芝野、井山が意地を見せ、さらなる復讐を！

第8 同世代の著名人が次々と逝去！

1) 私が司法試験に合格した1973年10月当時の合格者の平均年齢は28~29歳。したがって2年間の司法修習と弁護士50周年を経た同期生は平均年齢が80歳を護ったから、約500名の同期生のうち3割の約150名が逝去した。

2) 織田信長は敦盛の「人間五十年 下天のうをくらぶれば 夢幻の如くなり」を好んだが、今や人間の寿命は100歳に近づこうとしている。しかし、それでも万人に平等に与えられた時間(寿命)だけはどうしてもない。近時は同世代の著名人の逝去も多い。そんなニュースに接するたびに思うのが、“昭和は遠くにけり”だ。そこで、以下私が「微博」に投稿したものを列記しておきたい。①園まりが80歳で逝去。昭和は遠くにけり(8/6) ②作家・大崎善生さんが66歳で死去(8/7) ③アラン・ドロンが88歳で死去(8/22) ④高石ともや、も8月17日に死去(8/22) ⑤桂ざこば師匠のお別れ会が開催(8/22) ⑥女優・西田敏行が76歳で死去(10/17) ⑦ピーコも9/3に79歳で死去(10/21)。

2025(令和7)年元旦(2024年11月18日記)

坂和総合法律事務所

所長 弁護士 坂和 章平

事務所と坂和章平弁護士の近況報告

第1 弁護士業務の現状

1) 近時は弁護士として法廷に赴くことはほとんどなくなっていたが、2023年9月以降、私はある事件で裁判を提起し奮闘している。結論が出るまでその紹介は控えるが、今回の事務所日よりでは、その詳細が報告できるかも？お楽しみに。

2) 宏展弁護士を主任とし、私が補助する形での依頼事件もチラホラ。足を動かすのは面倒だが、頭と口はまだまだ達者だから、50周年を終えた後も第一線で活動を続けたい。

第2 2024年10/11に肺がん手術！(入院1週間)

1) 2015年9月の大腸がん手術、2016年11月の胃がんの手術は両者とも幸いステージⅠだったため、切除さえすればそれで終わり。以降、定期的な検診で転移等の異常がなければ治療終了となる。私も無事にそのコースを歩んでいる。

2) そう安心していましたが、2024年6/10の健康診断を経て精密検査を受けたところ、右肺にステージⅠのガン(らしきもの)を発見！3度目のがん告知にはビックリだが、何ゴトにも前向きな私は、今回も「早期発見、早期手術で切除できればラッキー！」と考え、直ちに大阪市北区の北野病院での手術を決断した。11/5手術の予定が、急遽10/10(木)入院、10/11(金)手術と繰り上がったのもラッキー。手術直後に丸1日ICU(集中治療室)で過ごしたのは初体験だが、1週間後の10/17(木)には退院することができた。手術直後の3連休は個室のベッドで大リーグでの大谷翔平の活躍をベッタリと観戦。その後の仕事+自宅療養中も、セ・パ両リーグのCSをTVでタププリと観戦できたから感謝！

第3 講義・講演

1) 幸田町職員向け研修講演(Hint会議)(2025.2/7予定)

私は縁あって2024年7/1に愛知県額田郡幸田町の顧問弁護士に就任した。その手始めとして、「まちづくりの法と政策—幸田町のまちづくりと区画整理の活用」というテーマで職員向け研修講演を9/3に予定したが、大型台風接近のため11/29に延期。ところが、肺がんの手術のため、再度2025年2/7に延期した。ご迷惑をおかけしました。

2) 阪大ロイヤリング(12/12)と事務所見学(11/28)

「まちづくりの法と政策」をテーマとする年1回の講義は事務所見学と共に約30年間続いているからすごい。ポチポチ引退の時期だが、体力と気力が続く限りは続けよう。

第4 出版活動—『シネマ56』と『がんばったで！51年』

1) 利益確定のため2023年12月にオーエス株の株を売却したため、映画館株主優待を活用した阪急西宮北口駅の西宮ガーデンズにある「TOHOシネマズ西宮OS」での映画鑑賞は中止に。そのため、年間の鑑賞本数が大幅に減ったが、執筆意欲はなお健在で、無事に『シネマ56』を出版できた。

2) 弁護士50周年を記念する『がんばったで！51年』の出版準備は着々と進行中。前半の27年と後半の24年に大きく時代区分した計51年を振り返っての弁護士生活の集大成は盛りだくさんの充実した内容になりそうだから、乞うご期待。3月~4月頃の出版予定だ。

第5 執筆活動(1)新日本法規出版の加除本

1) 『問答式 土地区画整理の法律実務』は7月にリモートで編集会議をし、8月に「土地区画整理事業運用指針の令和6年改正」、「土地区画整理事業運用指針が定める立地適正化計画における土地区画整理事業の活用は」「コンパクト・プラス・ネットワークのモデル都市(立地適正化計画の先進事例)」等の新設11問と補正28問を執筆し、10月に追録58~60号が発行された。

2) 『わかりやすい都市計画法の手引』は10月~12月に、現在の情勢に合わせた加筆や修正を行い、追録59号~の発行は、1月、2月の予定だ。

3) 『Q&A 災害をめぐる法律と税務』は、「災害ケースマネジメントとは」、「防災拠点自動車駐車場とは」、「防災分野における地方公共団体と郵便局の連携とは」の他、8/8に運用開始

後、初めて発表された「南海トラフ地震臨時情報とは」についての設問など、新設28問を執筆し、補正41問の加筆・修正をした。追録76~80号は、12月と1月の2回に分けて発行されることになっている。

4) 7月の新日本法規のWEBサイト「法苑WEB」のコラムの執筆依頼を受けて、「始皇帝モノ」は面白い。連載コラムその1『キングダム』シリーズ全4作を楽しもう！—」を執筆し、9月に第1回目が掲載された。連載は数回を予定しているので、乞うご期待。

第6 ビルオーナーとしての賃貸業務

1) 人間も年と共に老いるが、それはビルも同じ。2001年4月に1億円超の費用で全面改装したコートビルも、10年毎の屋上防水や外壁補修等をマメに実施してきたものの、20年以上も経つと空調設備全体の入れ替え等が必要に！区分所有権だけの複合ビルではその合意形成が大変だが、西天満コートビルのオーナーは1人(1社)だけだから、方針決定は容易だ。もちろん、その費用等は保険の積立等で「怠りなし」。一時的にテナント諸氏には迷惑をかけたが、空調、外壁、屋上防水等を完璧に仕上げたから、コートビルの管理は今後10年間は安泰だ！

2) 今や収入面だけを考えれば、私の職業は弁護士というより、不動産賃貸業だ。2023年3月と7月に2戸購入した都島区のマンションは、個人的な人脈ですぐに入居者が決定したからラッキー。『がんばったで！51年』の出版を準備している今、不動産賃貸業という思わぬ「副業」が発展、成長できたことに感謝！

第7 宮本茂樹イベント 第4回(7/17)

4/20、5/22、5/29に続いて7/17(水)、第4回宮本茂樹会(坂和会)を滋賀県の湖東地区で開催。

1) 観音正寺を見学(4頁・写真①)

観音正寺は、近江八幡市にある天台宗単立の寺院で、西国三十三所第32番札所だ。本堂は、標高433メートルの織山(きぬがさやま)の山頂南側の、標高370メートル付近にある。安土城がすぐ近くにあったという織山の山頂からの眺めはすばらしい。天候に恵まれたことに感謝しながら、織田信長の「天下布武」の気概を共有することに。

2) 酒蔵を見学(4頁・写真②)

次は、蔵元 藤居本家の酒蔵である「かくれ蔵 藤居」を見学。この大正時代の酒蔵は国の登録有形文化財の指定を受けている。また、江戸時代の天保2年(西暦1831年)から代々酒造りを家業としており、ドラマや映画のロケ地としても使用されている。そして、ここは清酒の謹造元として、①旭日(きょくじつ)②琵琶の舞(びわのまい)③杜氏の舞(とうじのまい)を製造販売しており、新嘗祭の御神酒(白酒)を宮中に献上している酒蔵だ。私は、日本のアサヒビールの工場やサントリーの工場、さらには中国の青島にある青島ビールの工場見学をしたことはあるが、こんな家族経営の酒蔵をオーナー自身の案内で見学したのは今回がはじめてだから、見るもの、聞くものすべてが新鮮で、興味深かった。

3) 納屋孫(なやまご)で会食(4頁・写真③)

最後は、東近江市 五個荘 近江湖魚料理亭「納屋孫」で会食。ここは、クラブツーリズムで多くのお客様を案内してきた茂樹くんお薦めの「知る人ぞ知る」高級料亭で、本来は宮本憲一先生をお連れするべく予約していたもの。私にとって、琵琶湖のあゆ、こい、ピワマス等の料理ははじめて。目の前で焼いてくれるあゆの美味しさは忘れられないものになった。年に一度ぐらいはこんな雰囲気のお店で、こんな高級料理を味わいたいものだ、決意を新たにすることに。

第8 弁護士50周年、日弁連から記念品！(4頁・写真④)

思えば遠くに来たもんだ。1974年4月の、25歳での弁護士登録から早くも50年。大阪弁護士会が祝ってくれた上、日弁連からは表彰状に続いて7/4に記念品(メガネ置き)が到着した。1本のメガネだけでは対応できない有り様だから、安藤七宝店の立派な品物はありがたい！全く日弁連のお役に立てていないことを自覚しつつ、75歳の今も、そしてこれからも“オレ流”の弁護士人生を最後まで歩み続けたい。

《宮本茂樹イベント 第4回 (7/17)》



【写真①】観音正寺にて



【写真②】蔵元 藤居本家の酒蔵にて



【写真④】7/4
弁護士50周年、日弁連から
記念品！



【写真③】納屋孫（なやまご）にて会食



【写真⑤】6/10
「昭和・平成の演歌大全集」CD全10巻が到着！



【写真⑥】6/26 吉永小百合&浜田光夫
『純愛ブルーレイボックス』が到着！



【写真⑧】8/8
劉茜懿と劉旭光先生が来所



【写真⑦】6/11
伊地知拓郎監督と小川夏果氏が来所



【写真⑨】7/19
ラム白湯専門店
「羊羊羊」(Yo-Yo-Yo)
が開店！



【写真⑩】8/4
西天満神鋒講 慰労会

《上海旅行記（6/16～20）》



【写真⑪】6/16
李淵博くんが花束を持って空港にお迎え



【写真⑫】6/16
横断幕のお迎えは中国流



【写真⑬】
6/16 夜、伊知地拓郎監督らと会食



【写真⑭】6/17 午前中
「上海観復博物館」見学



【写真⑮】6/17
世界一高いビル「上海中心」を見学



【写真⑯】6/17 李淵博くん主催の夕食会



【写真⑰】6/18
「籟寂 后图像时代的发声 国际当代艺术展」
見学



【写真⑱】6/19
「世博会博物館」見学



【写真⑲】6/19
「影絵（皮影）」見学



【写真㉓】6/19「上海电影博物館」見学



【写真㉔】6/19
「世博会博物館」見学



【写真㉔②】6/19
「上海四行仓库抗战纪念馆」見学



【写真㉕】6/19「上海电影博物館」見学

上海旅行記 (6/16~20)

<旅行の動機>

『郷 僕らの道しるべ』が上映される上海国際映画祭への出席をメインとした今回の上海旅行は、2012年8/16~24の「上海・合肥・南京・上海旅行」以来12年ぶり。案内役は李淵博くんだから全幅の信頼を。また、劉茜懿氏らが寧波で開催中の「鎮寂 后图像时代的发声 国际当代艺术展」への参加も彼女の友人が車で案内してくれるからひと安心。そんな上海旅行の一端をご紹介（詳細はホームページを参照）。

<旅行記>

・1日目 (6/16)

【朝】関空から上海浦東国際空港へ。李クンと劉クンがお迎え（5頁・写真⑪、⑫）。【午後】①上海市歴史博物館を見学②コロンビアサークル（近時の人気スポット）を見学。【夜】伊地知監督、小川夏果プロデューサーおよび中国人映画関係者らと会食（5頁・写真⑬）。

・2日目 (6/17)

【午前中】①上海観復博物館を見学（5頁・写真⑭）。②世界一高いビルである上海中心を見学（5頁・写真⑮）。【午後】③CROWNE PLAZA SHANGHAI（上海銀星皇冠假日酒店）で『郷 僕らの道しるべ』の上映会④康経堂（KANG JING TANG）でマッサージ。【夜】李クン主催の坂和歓迎の夕食会（5頁・写真⑯）。

・3日目 (6/18)

【午前中】劉茜懿氏の友人である孟祥龍クン、杜阳クン運転の車で寧波へ。【昼】寧波大学科学技术学院の尚林美術館で「鎮寂 后图像时代的发声 国际当代艺术展」を見学（5頁・写真⑰）。3時間30分かけて帰路へ。【夜】伊藤日実子とその友人、斎藤慶太クンの3人で会食。

・4日目 (6/19)

【午前中】劉クンが車でお迎え。①上海万博 EXPO2010 会場「世博会博物館」（5頁・写真⑱）で「洋華瓷彩展」、「影絵（皮影）」（5頁・写真⑲）、「2010年の上海万博と万博の歴史」（5頁・写真⑳）を見学。【午後】案内が劉クンから孫農俊クンの友人の張クンに交代。②中国映画『八佰』（20年）（『シネマ54』177頁）で有名な、1937年に起きた第二次上海事変最後の「四行倉庫の戦い」の記念館を見学（5頁・写真㉑㉒）。

③上海電影博物館[SHANGHAI FILM MUSEUM]を見学（5頁・写真㉓㉔）。④康経堂（KANG JING TANG）でマッサージ。【夜】張クンと伊藤日実子と3人で食事。

・5日目 (6/20)

【午前中】劉クンが車でお迎え。リニアモーターカーで空港へ、上海浦東国際空港から関空へ。無事に帰宅。

「昭和・平成の演歌大全集」CD全10巻が到着！ 夜毎に活用！（6/10）（4頁・写真⑤）

1）美空ひばり、石原裕次郎の2大スターの死去は「昭和の終わり」を実感させたが、谷村新司、八代亜紀の死去は同世代だけに大ショック。そんな中、昭和の大スターから平成の現役歌手まで、110組の夢の歌謡ショーを開幕させるCD全10巻が発売！新聞の折り込みチラシを見た私は、すぐに購入。2）超小型の iPod は旅行中の携帯には便利だが、自宅では昔ながらのCDラジカセが便利。私が夜、寝ている間にずっと流しているのは①淀川長治が選んだCD10巻の映画音楽大全集、②私の大好きなZARDの全集、③テレサテンの日本語・中国語のCD等だが、今般、「昭和・平成の演歌大全集」が追加！

吉永小百合&浜田光夫『純愛ブルーレイボックス』 全5作が到着！（6/26）（4頁・写真⑥）

1）吉永小百合、日活デビュー65周年記念特別記念盤が完成！40作を超える共演を重ねた吉永小百合&浜田光夫の「純愛コンビ」は最高！何を隠そう、私は2008年10/31~11/27

に放映された『祭りTV！吉永小百合祭り』にゲスト出演した。これは、『まぼろしの邪馬台国』（08年）への期待と吉永小百合論を語ると共に、同番組で一挙放映する全32作の見どころをお茶の間にお届けした45分のトーク番組だ。

2）それほどの熱烈な“サユリスト”にとって、収録された『ガラスの中の少女』（60年）と『赤い薔と白い花』（62年）は見逃していただけない、必見の映画だ。

伊地知拓郎監督と小川夏果氏が来所 (6/11)（4頁・写真⑦）

1）『郷 僕らの道しるべ』の“快挙”については上海旅行記を読んでもらいたいが、伊地知拓郎監督と小川夏果プロデューサーの2人が上海行き前日の6/11の夕方、わが事務所を訪問してくれた。伊地知監督とはこれが初対面だ。

2）私が『郷 僕らの道しるべ』への応援（出資）を決定したのは、女優業を辞めて、你好（ニイハオ）と謝（シェイシェイ）しか知らないにもかかわらず、いきなり北京電影学院に飛び込んだ小川さんの決断力と勇氣に感服したため、そしてまた、そんな彼女が北京電影学院留学中に出出したという、伊地知監督の“若き才能”を信用したためだ。そんな2つの才能が結集して制作する新作映画なら、すごいものができること間違いなし！そんな確信はあったが、それがこんな形で現実になるうとは！

劉茜懿と劉旭光先生が来所（8/8）（4頁・写真⑧）

1）現在、城西国際大学の助教授の劉茜懿氏は、現在、現代美術（モダンアート）のアーティストとして活動中。父親の劉旭光氏は定年退職後も制作活動に。そんな2人の要請で、私は「東京藝術大学と中国人留学生展」に一定の寄付をしたところ、そのお礼と近況報告のため、2人が事務所を訪問してくれた。

2）私たち3人は、事務所の会議室でビールを飲み、おいしい料理をつまみながら様々なテーマについて語り合った。その中には、2024年5/26の横浜での劉旭光制作の石碑「鎮寂 后图像时代的发声 国际当代艺术展」見学の話題も。

3）東京 or 鎌倉での自宅購入も射程距離に入中、3人の接点はさらに強まり深まりそう。これこそ真の日中友好活動のパターンだと確信！

ラム白湯専門店「羊羊羊」(Yo-Yo-Yo)が開店！ (7/19)（4頁・写真⑨）

1）オーナーは威海出身の姜程源クン！日清戦争当時の巨大戦艦「定遠」を中心とする当時の清国が誇る海軍は、「威海衛の戦い」（1895年）で日本海軍に完膚無きまでに打ちのめされた。そのテーマパークを毛丹青老師と共に訪れたのが2010年3月、それを案内してくれたのが姜クンのお父さんだった。

2）その縁で姜クンが毛老師の下に留学したが、約10年後の今、若手起業家として彼が堅いポリシーの下に「関大前」というチョー激戦区でラーメン店をオープン！

3）プレオープンに駆けつけ、味見したが、こりゃ旨い！こりゃ成功間違いなし！「365日、年中無休」という根性は私の教えの実践だから偉い。今時のヤワな日本人の若者たちとは大違いだ。まずは1年間元気で働き、「収支トントン」を達成し、2年目からは儲けを大きくさせたい。姜クン、加油！

西天満神鉾講 慰労会（8/4）（4頁・写真⑩）

1）猛暑の続く中、7/25に天神祭りを挙行！西天満の町内会（神鉾講）は、例年通りに日本料理「八幸」で慰労会を開催。

2）年に一度顔を合わせ、同じハッピーを着て、美味しい料理と酒でひと時を過ごすのは楽しい。こんな行事は毎年続けない。ラストは“大阪締め”で元氣よく！

新日本法規出版の「法苑 WEB」に連載コラム「始皇帝モノ」は面白い。連載コラムその1『キングダム』シリーズ全4作を楽しもう！」を公開(24年9/11)

(<https://www.sn-hoki.co.jp/articles/article3705767/>)

1) 戦災孤児の信と若き嬴政(えいせい)を主人公とする、原泰久の原作を映画化した『キングダム』シリーズは東宝系で大ヒットを続けたが、第4作『キングダム 大將軍の帰還』(24年)でシリーズが完結した。他方、2024年6月~10月までBS11で放映された『始皇帝 天下統一』も全78話が終了した。中国TV時代劇は「三国志モノ」と「始皇帝モノ」が双肩だが、後者には『ミューエ 王朝を照らす月』(全81話)、『キングダム~戦国の七雄』(全7話)等の名作、力作が多い。

2) 「潜水艦モノは面白い」が私の持論。それは『U・ボート』シリーズや『レッド・オクトーバーを追え!』(90年)、『K-19』(02年)、『真夏のオリオン』(09年)等で実証済みだ。それと同じように「始皇帝モノは面白い」を持論にしている私は、新日本法規の「法苑 WEB」に上記のコラムを執筆し公開した。あなたは、勝新太郎主演の『秦・始皇帝』(62年)を知ってる? また、膨大な回数で放映されたTVアニメ版『キングダム』を観たことがある?

3) “中国歴史小説の重鎮”塚本青史が、キングダム=秦国と中華統一を描いたメチャ面白い小説『バシレウス 呂不韋伝』(19年)を知ってる? 嬴異人(=子楚=莊襄王)は長い間、趙国の人質でありながら、なぜ秦国の大王になることができたの? 他方、趙姫が生んだ男の子、嬴政の真の父親は誰? 嬴異人? それとも後に秦の宰相にまで登り詰めた呂不韋? “商鞅の変法”を受け継ぎ、発展させた李斯が、嬴政の腹心として始皇帝を誕生させることができたのは一体なぜ? “戦国七雄”と始皇帝誕生を巡る壮大なドラマはメチャ面白い。このコラムは必読!

『シビル・ウォー アメリカ最後の日』(24年、アメリカ・イギリス映画)(監督・脚本:アレックス・ガーランド)

1) カマラ・ハリス(民主党)VSドナルド・トランプ(共和党)が激突する2024年11月の大統領選挙の結末は如何に? トランプVSバイデンの、微差での決着となった前回は、投開票の不正問題や連邦議会乱入事件が発生。その後の米国の分断と対立は深刻だ。これで本当に先進民主主義国と言えるの? ロシアでも中国でもトップの任期制限が撤廃され、個人独裁の長期化(終身化?)が始まったが、任期は4年、2期までと憲法で規定された米国では?

2) そんな今、何とも物騒ながらタイムリーな本作に注目! 近未来の米国は、分断の果てに勃発した内戦(シビル・ウォー)の下、19の州が連邦政府から離脱し、テキサスとカリフォルニアの同盟からなる西部勢力と大統領率いる政府軍による激しい武力衝突が各地で発生! 大統領はTVで「歴史的勝利に近づいている」と訴えていたが、現実とは逆。西部勢力はワシントンD.C.付近まで進攻し、政府軍は敗色濃厚らしい。本作は記者たちが大統領への単独インタビューを試みるロードムービーだが、「3期目の任期中に後悔したことは?」「米国民への空爆をどのように考える?」等の質問事項を聞くと、アレレ、アレレ・・・?

3) 「タラのテーマ」で有名な『風と共に去りぬ』(39年)で見た“南北戦争”も悲惨だったが、本作のクライマックスに見る連邦議事堂での攻防戦も米国民同士の“内ゲバ”だから、悲惨。それをつぶさに見聞した主人公の戦場カメラマンや記者たちの報道は如何に?

4) もっとも、私には本作の脚本の偏り(?)や主人公の設定に不満あり! 何よりも“ゲティスバーグの戦い”(1863年)等の天下分け目の“大会戦”の描写がないのは決定的な不満! それに代わって本作のクライマックスで描かれる連邦議事堂やホワイトハウスへの突入をあなたは どう考える?

『日本と中国』2024年8月1日・No.2291



観客と記念撮影する伊地知監督(手前左)と小川プロデューサー(同右)



記者会見

(1) 私と女優兼プロデューサーの地知拓郎監督とタッグを組み、鹿児島で新作映画『郷 僕らの道しるべ』を制作中である縁は、本紙への連載。2022年12月31日に難波で初対面した私は、彼女の才能を直感した。映画関連事業への援助を約束したところ、すぐに北京電影学院(2)早速、今年4

月号の『熱血弁護士坂和章平 中国映画を語る(84)』で紹介し、日本での公開を待望していたところ、5月中旬、上海国際映画祭のアジア新入部門でWノミネートの報告を受け、さらに驚愕した。コロナ禍を終えた今、何が何でも映画祭での上映を体験しなくちゃ! 直ちにチケットを買い、ホテルを予約し、ビザの手配を済ませた。私は、通訳の女性を伴って、4泊5日の上海旅行にいき、出発! (3) 12年ぶりの上海旅行の狙いは多かったが、最大の目的は中国語タイトル『郷野』の上映会と、伊地知拓郎監督と小川夏果プロデューサーの記者会見を自分の目で確認することだ。中学生の時から松山の映画館に通い、大阪でも多くの映画館を体験したが、私にとっても上海の映画館での映画鑑賞は初体験。DVD鑑賞とは異質の本作の素晴らしさを堪能することができた。

上海国際映画祭に初参加!



弁護士・映画評論家 坂和章平

(4) 上映後や記者会見後の2人への拍手は温かく大きいものだったから、作品賞・監督賞の受賞には至らなかったものの、Wノミネートの功績は大きい。25歳の伊地知監督の才能と、それを支える小川プロデューサーの実務能力が合体すれば、今後の作品できっとその大願を成就させることだろう。したがって、「残念感」ではなく、そんな将来への「期待感」いっぱいの上映会に拍手! そして、こんなすごい機会を与えてくれた小川夏果さんに感謝!

2024年7月4日記

弁護士兼映画評論家 坂和章平の出版物の紹介

<まちづくり本、法律書>



(96年5月)



(01年6月)



(03年9月)



(04年11月)



(05年4月)



(07年7月)



(08年4月)



(15年11月)



(17年6月)

<実況中継シリーズ全4冊>

<その他の著書>



(17年6月)



(23年1月)



(12年4月)



(00年7月)



(02年9月)



(04年6月)



(06年9月)



(04年5月)

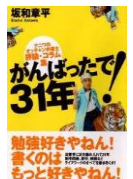


(05年10月)

<コラム集>

<名作映画シリーズ>

<中国語の著書>



(05年8月)



(13年12月)



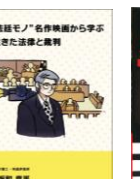
(19年4月)



(10年3月)



(10年12月)



(19年3月)



(20年5月)



(09年8月)



(12年8月)

<『シネマルーム』シリーズ 既刊全56巻>



(18年7月)



(18年12月)



(19年7月)



(19年10月)



(19年12月)



(20年6月)



(20年12月)



(21年7月)



(21年11月)



(13年12月)



(14年7月)



(14年12月)



(14年12月)



(15年7月)



(15年12月)



(16年7月)



(16年12月)



(17年7月)



(09年5月)



(09年8月)



(09年12月)



(10年7月)



(10年12月)



(11年7月)



(11年12月)



(12年7月)



(12年12月)



(07年2月)



(07年6月)



(07年10月)



(07年10月)



(08年2月)



(08年5月)



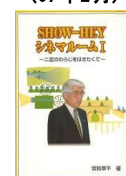
(08年6月)



(08年9月)



(08年10月)



(02年6月)



(03年8月)



(04年4月)



(04年11月)



(04年12月)



(05年5月)



(05年10月)



(06年2月)



(06年7月)